

新眼鏡 しんめがね ふと驚いた 寒の星 かんほし (輝)

ある冬の日、視力が落ちたということで、友人が新しい眼鏡を買ってきた。その帰り道、ふいに夜空を見上げ、友人はポツリとつぶやいた。

「星ってこんなにキレイだったんだね」

私も近眼だから、とても気持ちがかかる。

眼鏡って魔法の道具だ。

◇ だけど、良くない意味で使われる眼鏡もある。そう、色眼鏡。意味は、物を素直に見ずに、先入観・偏見をもって見ること。つまり心の眼鏡ともいえるだろう。

◆ 心の眼鏡を通して映るのは、目に見えないものがほとんど。それは、視力検査の「C」のマークを見るのと似ている。つい欠けているところに意識が向いてしまうのだ。欠点、短所、マイナス面、課題……。ただ、こうなると本当はキレイなものが見えづらくなってしまう。

◇ では、眼鏡を新しく変えたらどうだろう。輝く夜空のように、今ままでは、ぼんやりとしか見えなかった、人の素敵なところが見えるようになるかもしれない。

さあ、今日はどんな心の眼鏡をかけて出かけよう。

—— 天理のことば ——

「よそのほこりは見えて、

内々のほこりが見えん」

（明治二十四年十一月十五日）

※ほこり…神様の意に沿わない人間の心のあり方の

比喩。気付けば部屋に「ほこり」がたまる

ように、知らず知らずのうちに心にも

「ほこり」がたまってしまう。

陽気ぐらしの天理教